

保護者のための 子育て力アップ講座

写すようにし、右側で計算をするようにします。国語の場合はノートの下の部分に横線を引き、漢字の書き順や練習などを狭い方のスペースに書くようにすると良いですね。

横書きノートの場合には、縦の線を引いた後で更に横の線を下の方に1本加えて、ノートを3分割にする方法もお薦めです。この場合は下にできたスペースは復習に使えます。家に帰ってから、上のスペースに書き込んだ授業内容のポイントや要約を書き込めば、授業で習ったことがしっかりと身につくようになります。

また、最近の小学校では授業内容を補足する上で数多くのプリントが配られますが、配られたプリントがどこかに行ってしまうと見つからない、という様なことが子どもにはよく起こります。これもノートにちよつとした工夫をすることで防ぐことができます。名付けて「ノートポケット活用法」です。まずノートの上の部分を斜めに切り、右側と下側にセロハンテープを貼って次のページと貼り合わせるだけ。これでできたポケットに、その授業で配られたプリントや返却されたテストなどを入れておけば良いのです。

こうすれば、プリントも自然と教科別に整理され、家で復習する際にその日の分を取り出せば失くすこともありません。プリント類はバインダー等にまとめておく方法もありますが、お薦めしたいのは「マイ参考書」を作る方法です。

学校で配られたプリントや資料、参考書の気になった部分や新聞、雑誌の記事などをノートに貼り、自分だけの参考書を作

るのですが、作る際のポイントはいかにきれいに仕上げるかにあります。適当に作ってしまうと汚さが気になってしまい、何度も見直そうという気がなくなってしまいうかです。ノートに貼る際にテープのりを使うと、表面がボロボロにならずに済みますし、最近は張り直しができるタイプのテープのりも発売されていて、多少失敗してもきれいに仕上がるのでお薦めしたいですね。

マイ参考書作りは、切ったり貼ったりという作業が子どもにとって遊びの要素を含んだ楽しい時間になりますし、どこをどこに貼るかを考えるだけで自然と知識を体系的に整理できます。更に、売られている参考書は生徒一人一人の学力に必ずしも合致していませんから、世界に一つだけのマイ参考書を作るとは、学習上も大変効果があるのです。

**間違えを消すのは大間違い!**

次はペンについてお話ししましょう。学校では鉛筆を使うように指導されていると思いますが、自宅では鉛筆を使う必要はありません。私は0.4mmのゲルインキボールペンを使うように教えています。なぜか？一つは、このペンは極細のペン先なのでかなり細かく書き込めるということ。そして、インクの減りが早いので、「たくさん勉強した」という達成感が味わえるからです。インクの芯は交換できますから、使い終わった芯を捨てずにペン立てに貯めていけば、一目で自分の努力を目にでき、子どもはますますやる気になっていきます。加えて、ゲルインキボールペンは交換用のイ

ンク芯が40種類上もあり、ペンの色を選ぶという遊びの要素もあります。

「ボールペンで勉強させたら、間違えた時に消せないじゃないか」と思われる方がいるかもしれませんが、実はボールペンを薦める狙いはそこにもあるのです。

間違えた答えや計算式は、学力を向上させる上でとても大切です。間違えを間違いのまま残すことで、後で自分がどこをどう間違えたのか確認ができます。どういう間違えをしやすいのか、いわば自分の弱点を子ども自身に気付かせることができれば、勉強に大いに役立ちます。そこを曖昧にしてしまうと、同じ間違えを何度もくり返す結果になり、効率が悪いだけでなく、やる気を失くしてしまう可能性も高まってしまいます。

同様の理由で、私は消しゴムの使用を薦めません。私の指導経験上、勉強が得意な子は消しゴムを使うといえます。勿論テストの時には間違えた答えを消して正解を書き直さなければなりません。普段の勉強では間違えを消すことにメリットはないのです。

他にも役に立つ工夫は色々あります。子どもは教科書や参考書に蛍光ペンなどで線を引く作業を好みますが、やっている内にどれもこれも重要に思えてきて、気付いたら教科書中が蛍光ペンだらけということもあります。これでは実際にどこが重要なのか全く分からず、意味がありません。そこで、最初はトレーシングペーパーを被せ、その上から線を引くようにさせましょう。引き終わったら、確認しながら本当に必要な部分だけを教科書にマーキング

させます。この作業をする内に重要な箇所を2回は読むことになり、学習効果も上がります。

定規は長さを計るために使うのが常識ですが、新聞や長い文章を読む際に定規を当てながら読むようにすれば、視点のブレを防いでくれて読み飛ばしがなくなるだけでなく、しっかりと読む癖が付くようになります。

ふせんはチョットしたメモ書きなどに使われますが、テープ状のふせんを活用すれば簡単に穴埋め形式のクイズができます。テープ状であれば好きな長さで切れるので、覚えたい言葉や算数の数式をふせんで隠すだけです。一人でもできますが、家族や友だちと遊びながらやれば楽しみながら覚えることができます。

英単語や漢字の暗記に使う単語カードも工夫して使えます。家でやるべき勉強を1枚に一つずつ(例えば「国語/漢字練習」、「算数/ドリル〇ページ」といった様に)書き、机の上に並べます。カードに書いた勉強が終わったら、カードをピリッと破ってゴミ箱に捨てましょう。カードを破る楽しさもあり、次の勉強へと気持ち切り替えられます。全て破り終えればその日の目標クリアとなり、達成感を味わえます。

あと3か月もすれば新学期が始まります。新学期のスタート時に新しい文房具を揃えてあげるだけでも子どもはやる気が出るものです。その際には是非、親子一緒に揃えてあげたい文房具選びや使い方の工夫に取り組んでみてください。お子さんのやる気がアップすること請け合いです。

知って得する! 子育てに役立つ情報を毎月お届け!

子

どもたちの周りには文房具が溢れています。カバンの中や学習机の引き出しの中、家のリビングやダイニングにも、数多くの文房具があることでしょう。書くものだけでも、鉛筆、シャープペン、ボールペン、サインペン、等々。書き写すものも、ノートやメモ帳、裏半紙など、様々です。

大人が簡単なメモを取る程度であれば、これらを適当に組み合わせれば使えば用は足りませんが、子どもの勉強の場合にはどの文房具を使うべきかきちんと選ぶ必要があります。

私は家庭教師や塾講師としての仕事柄、多くの保護者の方々に「子どもの成績を伸ばすにはどうすればいいの?」という質問をいただきますが、子どもの成績を伸ばす最大のポイントは、勉強の教え方ではなく、「子どもに勉強をやる気を起こさせる」ことにあります。

そして、この「やる気を起こす」方法の一つとして、文房具の活用は非常に効果的です。私は10年ほど前から、生徒たちに文房具の選び方、使い方に関する様々な工夫を教えてきましたが、それまであまり勉強に熱の入らなかった子どもでも、俄然やる気を出して積極的に勉強に取り組みようになっています。

文房具をどう使えば、子どもに学習意欲を起させることができるのか、以下、具体的にお話ししたいと思います。

プリントを貼ってマイ参考書を作ろう

子どもを教える際に最初に言うのがノ

保護者のための 子育て力アップ講座

第11回 文房具を工夫して学習意欲を高めよう!

ペンは単に「書くもの」、ノートは単に「書き写すもの」と思っていないですか? 実は文房具も使い次第で子どもの学習意欲を高める道具になるのです。家庭教師のアクセス代表及び早稲田教育スクール塾長を務め、数多くの子どもたちを指導している榎本勝仁氏に、子どもの学習意欲を高める文房具の活用方法について伺いました。



トの工夫です。小学生の場合、国語は縦書きの、それ以外の教科では横書きのノートを使用しますが、大抵のご家庭ではノートを買ったままお子さんに手渡してそれっきり、という場合が多いのではないのでしょうか。

例えば、算数の授業の場合、まっさらなノートだと、板書を書き写したり、計算をしたり、色々な内容をそのまま順に書き込んでいきますから、ゴチャゴチャして後から復習しようと思っても分かり難くなってしまう。

そこで、ノートを手にしたらずして貰いたいことは、ノートに線を引くことです。大学ノートだったら上下に付いている目盛りの右から5つ位がベターでしょう。そこを結んで縦に線を一本引きます。こうして、授業内容は左側の広いスペースに書き